

授業科目名 <英訳>	自然生態論 Ecological History I				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 小坂 康之					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
<p>アジア各地にみられる自然環境の改変、農業の近代化、農村の過疎化などの現象は、日本がこれまでに経験した、あるいは現在まさに直面している課題と共通である。またアジアの自然環境や人々の生活は、グローバルな企業活動や情報・流通網をつうじて、私たちの生活と密接に関係している。そこでアジアの自然環境や農業に関する現象を、日本との比較においてとらえ、その問題点や可能性を多面的に考察する。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ アジアの自然環境や農業に関する諸事象を理解し、自分で問題を設定して研究する力を習得する。 ・ 植生や植物（農作物、雑草、野生有用植物）を指標に、地域の環境や農業を見る視点を習得する。 ・ 文献により重要な概念を学ぶとともに、映像資料や標本をつうじてモノを覚え、フィールドでの観察力を養う。 											
[授業計画と内容]											
<p>以下のテーマについて、それぞれ1 - 2回ずつ講義と文献輪読を行う。</p> <p>1. 植物から地域をみる (1) 植物の多様性、(2) 栽培植物と農耕の起源、(3) 大航海時代とプラントハンター</p> <p>2. 農業から地域をみる (1) 水田稲作、(2) 焼畑耕作、(3) 里山の変遷</p> <p>3. 農業と環境 (1) 土と肥料、(2) ミツバチの生態、(3) 農薬の功罪、(4) 遺伝子組換え作物</p>											
[履修要件]											
特別な予備知識は必要としない。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
レポート試験の成績(70%)と平常点(30%)で評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
授業中に指示する											
(その他(オフィスアワー等))											
講義に関する質問は、メールや研究室で随時対応する。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	自然生態論 Ecological History II				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 古澤 拓郎					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	金3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
<p>生態系と人間との関わり合いを、理論と研究方法論から学ぶ。理論では、生態系における人間、人類の進化と適応、環境と生存・健康といった話題を取り上げる。方法論は、フィールドワークに関わるものが中心である。</p> <p>一つのテーマについて、参加者がそれぞれの関心から調べ、分析し、最終的に一つの論文のような形にまとめ上げて、報告するまでの、一連の作業を経験してもらう。これを通して上記のことを習得してもらう。</p> <p>平成29年度は「伝統社会は自然を保全してきたのか」をテーマとする。</p>											
[到達目標]											
自然科学と人文社会科学を横断した理論と、フィールドワークや統計解析の手法を習得する。これらを通じて、研究者として論文を読んだり書いたりするための技術を身に着ける。											
[授業計画と内容]											
<p>以下のテーマを取り上げ、講義する。学生には論文の輪講や発表も課す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 理論編：生態系と人間 / 人類の進化と適応 / 環境と生存・健康の関わり 2. 方法論編：行動観察 / 環境調査 / 健康科学調査 / 統計学的手法 3. 成果公表編：論文執筆方法 / 研究発表手法 4. 現代的課題編：生物多様性と人間 / 人口増加・気候変動と地域社会 / 環境保全の倫理 											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
出席、発表、議論への積極的参加、レポートに基づき、総合的に評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
<p>【予習】輪講などの課題は事前に読んで、専門用語や外国語の意味を調べること</p> <p>【復習】学んだ手法などは、自身の研究に取り入れられるように予習することが望ましい</p>											
(その他(オフィスアワー等))											
質問等は、随時メールや研究室で受け付ける。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	社会生態論 Environmental Ecology I	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 岩田 明久
---------------	----------------------------------	-----------------	--------------------------

配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	金1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
----------	-------	-----	---	--------------	-------------	-----	----	----------	----	----------	-----

[授業の概要・目的]

ヒトが生物の一種である以上、他の生物を食べて生存しなければならない。一次産業の中でも特に周囲の環境に支配をうける水産業と水産資源・生物に注目し、人間社会の、環境に対する働きかけとその影響を理解することに加えて、人間社会によって規程される資源の持続的利用・保全の様々なありかたを、他の生業とも関連させながら論考する視点を習得させることを目的とする。

[到達目標]

ヒトが地球の生態系の一員であることを理解するとともに、ヒトおよびヒトの社会と、生態系やそれを構成する生物・物理・化学等の環境とが相互に密接に関係しあい、その中でヒトの生業も変化し続けていることを理論的に考察できる基礎知識を習得する。そして、ヒトが持続的に生存できる社会について考察する能力を養う。

[授業計画と内容]

以下のような課題について、1課題あたり1～5週の授業、および実習をする予定である。

第1回 授業に関するガイダンス。

第2回 原発事故と水産資源（2011年3月11日、福島第一原発事故が起きた。放射線汚染と水産業の関係について概説する）

第3～5回 世界における漁業と環境（生態資源としての水産物を利用するとき、人間社会や環境にどのような問題が生じ、それらがどのように変容していくのかを概説する。合わせて、重要水産資源の生態学的・生物学的特長等を概説する）

第6～7回 人為と生物社会の対応（地球上で人為の及んでいない場所はない。人為が加わったとき生物はどう対応しているのかを具体例をあげて概説する）

第8回 生物間の関係（すべての生物は他の生物と環境との関わりのなかで存在している。生物間・環境の関わりを、すみわけ現象を例にして概説する）

第9～13回 生物多様性、保全生態・生物学と地域研究（生物多様性や保全生態・生物学が対象とする事例は当該地域の人間社会の様相で大きく意味合いが異なってくる。これらの事例につき具体例をあげながら概説する）

第14～15回 分類学・生物地理学と地域研究（地球は複数の生物地理区に分かれている。人間の特定地域での生業を考える際、在来のみならず外来生物も多様な意味を持つ。これらの事例につき具体例をあげながら概説する）

学習の理解度に応じて変更される場合がある。

[履修要件]

特にない。

社会生態論 (2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

出席，平常点，質疑応答，実習態度など，授業への積極的参加（20点），学期末のレポート（80点）に基づいて評価する．

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学習（予習・復習）等]

- ・シラバスに記載されている授業のトピックスについて，授業前に各自の可能な範囲において予習を行う．
- ・授業中に課題を提示し，各自の可能な範囲において復習を行う．

（その他（オフィスアワー等））

四回程度，第2～4時限の科目と連携して，亀岡方面で野外実習を行う予定がある．その際には担当教員から事前にその授業に関する案内を通知する．

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	社会生態論 Environmental Ecology II				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 竹田 晋也					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
熱帯生物資源の利用と保全をめぐる問題を、フィールドワークによって考察・分析する力、さらにそれを取りまとめて発表する力を身につけることを目的とします。本年度は、生物資源の管理をテーマに、輪読とレポート作成をおこないます。											
[到達目標]											
海外で臨地調査をおこなうために必要な基礎的な考察力・分析力・発信力を自主的に習得できるようになる。											
[授業計画と内容]											
講義では、関連論文の輪読とレポートの作成をおこないます。 1) まずつぎの論文を輪読します。 G. Hardin (1968) 'The tragedy of the commons' Science 162, 1243-1248 D. Feeny, et al. (1990) 'The tragedy of the commons : twenty-two years later', Human Ecology 18-1, 1-19 G. Hardin (1998) 'Extensions of 'The tragedy of the commons' Science 280, 682-683 E. Ostrom, et al.(1999) 'Revisiting the commons: Local Lessons, Global challenges.' Science284, 278-282 T. Dietz, et al.(2003) 'The struggle to govern the commons' Science 302:1907-1912 E. Ostrom (2009) 'A General Framework for Analyzing Sustainability of Social-Ecological Systems' Science 325:419-422 2) これらの生物資源の管理に関する議論と調査手法をふまえたうえで、受講生各自がそれぞれに関心をもつ分野(農業・林業・漁業など)と調査地域を対象とするテーマを設定してレポートにまとめ、発表します。											
[履修要件]											
特別な予備知識は必要ありません。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
レポートおよび出席状況により評価し、さらに授業の中での積極的な姿勢も考慮に入れます。											
[教科書]											
授業中に指示します。											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介します。											
[授業外学習(予習・復習)等]											
授業初回に配布する資料を予習・復習すること。											
(その他(オフィスアワー等))											
受講生も担当者もフィールドワークに出かける機会が多いので、まず初回に講義日程について話し合い、調整します。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	在地の学びかた How to learn of "existing locally"	担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 准教授 安藤 和雄
---------------	---	-----------------	------------------------

配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
----------	-------	-----	---	--------------	-------------	-----	----	----------	----	----------	-----

[授業の概要・目的]

Bangladesh の農村開発実践研究や日本でのフィールドワークの経験で得られた「在地」という地域の捉え方を、生態文化複合系を理解する一つの「方法論」として、京都市近郊でのフィールド講義を取り入れながら検討するとともに、研究することの原点を受講生とともに野外と教室での参加型講義の中で考えていきます。

また、京都府宮津市京都大学連携「一まち一キャンパス事業：「農山村学生実習のための「丹後アジア研修拠点」形成事業との関係で、土日、及び平日で有志の学生の参加を募り宮津市にてフィールドワークを実施する予定。

[到達目標]

地域研究におけるフィールドワークの実際の手法についてその基礎や考え方を習得することができるようになる。

[授業計画と内容]

講義の予定は、実習を含めて概ね下記のとおりですが、第一回目の講義の時の受講生との話合い、講義の展開の在り方によって、臨機応変に内容などが変わりますので、受講生はこの点を了解しておいてください。また、受講生は、亀岡市でのフィールド講義については、一日中かかりますので、他の講義との兼ね合いで、時間調整してください。野外実習の場合、雨天の時は教室で行います。亀岡での野外実習の場合は、当日の朝の天候によりますので、本講義を受講する予定の方は、必ず、メールアドレスを下記アドレスまでお知らせください。メールによって連絡します。

- ・ 在地の学び方入門（教室：稲盛小会議室）：人間の本能の営みとしての研究について
 - ・ 鴨川における実習講義：さかさまの発想 風景に自分を探る -
 - ・ 亀岡市での実習講義：フィールドワーク入門 自然と農業（安藤他）
 - ・ 鴨川における実習講義：知っていることは知らないことを自覚すること 1 - 自分なりの植物分類
 - ・ 亀岡市での実習講義：フィールドワーク入門 - 農業、圃場整備（安藤）
 - ・ 鴨川における実習講義：知っていることは知らないことを自覚すること 2 - 自分なりの植物分類
 - ・ 御所から東南アジア研究所までの実習講義：自分の地図づくり
 - ・ 在地の学び方実践編（教室：稲盛小会議室）：世界のニーズ対応型地域研究
 - ・ 在地の学び方実践編（教室：稲盛小会議室）：実践型地域研究
 - ・ 亀岡市での実習講義：フィールドワーク入門 魚類資源と水環境（岩田）
 - ・ 在地の学び方実践編（教室：稲盛小会議室）：日本と海外を結ぶ地域研究の新たな役割
 - ・ 鴨川でのオープン討論：講義を振り返って
 - ・ 愛宕山での実習講義：フィールドワーク入門 山の地形と植物（安藤他）
 - ・ 亀岡市での実習講義(予定)：フィールドワーク入門 農家と語る亀岡の農業（安藤他）
- 土日、及び平日で有志の学生の参加を募り宮津市にてフィールドワークを実施する

在地の学びかた(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

出席状況とレポート。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学習(予習・復習)等】

日記をつける。
新聞を読んで関心のかかる情報をストックする。
メモ帳にこまめにメモをつける。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは特に定めませんが、授業時間外に話をしたい受講生は、ando@cseas.kyoto-u.ac.jp 希望を伝えてください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	人間生態学 Field Medicine				担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 准教授 坂本 龍太					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	月4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
フィールド医学は、疾病、老化のありさまを、自然環境、文化背景との関連でもう一度、捉えなおそうとする研究領域である。本授業では、フィールド医学の系譜をたどるとともに我が国及びヒマラヤ地域などで行ってきた研究活動を紹介する。病院から地域に出て生活の場を重んじるフィールド医学のよりよい実践を目指し、世界の中で我々が抱えている課題を共有し、今後のあり方をともに議論していきたい。											
【到達目標】											
先人たちや同時代を生きる人々のパイオニアスピリッツや哲学を学び、自身で課題を発見し、自主的に物事に取り組む能力を育む。											
【授業計画と内容】											
第1回 自己紹介及び講座紹介 第2回 フィールド医学 第3回 自由とパイオニアスピリッツ 第4回 目の前の一人の患者からはじまる研究 第5回 傍らに棲むレジオネラ 第6回 高所環境における老い 第7回 内なる地球環境問題 第8回 ドムカル谷における高齢者の健康としあわせ 第9回 地域研究における友好の意義 第10回 ブータンにおける地域在住高齢者ケア計画 第11回 診療所から学ぶ人々の暮らし 第12回 医療の限界と役割 第13回 死生観と医療の意義 第14回 ヒマラヤの長寿者からの伝言 第15回 総合討論 試験 実施しない											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
出席と討論、ならびにレポートによって行う。											
----- 人間生態学 (2)へ続く -----											

人間生態学 (2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

(参考書)

坂本龍太 『ブータンの小さな診療所』 (ナカニシヤ出版) ISBN:978-4779508974

奥宮清人 『生老病死のエコロジー』 (昭和堂) ISBN:978-4812210673

[授業外学習 (予習・復習) 等]

授業中に感じた疑問や課題を大切に、それに関する事について調べたり、自分自身の頭でよく考える。

(その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	生態環境論研究演習 Research Seminar on Ecology and Environment I				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 岩田 明久 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 竹田 晋也 東南アジア地域研究研究所 教授 西淵 光昭 東南アジア地域研究研究所 准教授 安藤 和雄 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 古澤 拓郎 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 小坂 康之 東南アジア地域研究研究所 准教授 坂本 龍太					
配当 学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
東南アジアの自然環境と、それを取りまく社会生態環境の特質を検討するための基礎的な問題とアプローチの方法に関する演習をおこなう。											
【到達目標】											
研究者となるに必要な知識と技術を習得する。特に、研究の構想と計画立案、文献検索と学術動向の把握、研究成果の公表、議論する能力などである。											
【授業計画と内容】											
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめ											
【履修要件】											
博士予備論文審査にまだ合格していない者。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
発表内容および出席により評価するが、ゼミの中での積極的な姿勢も考慮に入れる。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
自分の発表に向けては、十分な努力と時間を費やして準備をすること。また、発表の前後には、指導教員とよく話し合うこと。 他の学生が発表する際には、その内容を理解し、議論することができるように、予習と復習を行うこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	生態環境論研究演習 Research Seminar on Ecology and Environment II				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 岩田 明久 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 竹田 晋也 東南アジア地域研究研究所 教授 西淵 光昭 東南アジア地域研究研究所 准教授 安藤 和雄 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 古澤 拓郎 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 小坂 康之 東南アジア地域研究研究所 准教授 坂本 龍太					
配当 学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
東南アジアの自然環境と、それをとりまく社会生態環境に関する具体的な事例をとりあげ、研究課題の構築とそのアプローチの方法についての演習をおこなう。											
【到達目標】											
研究者となるに必要な知識と技術を習得する。特に、研究の構想と計画立案、文献検索と学術動向の把握、研究成果の公表、議論する能力などである。											
【授業計画と内容】											
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめ											
【履修要件】											
博士予備論文審査にまだ合格していない者。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
発表内容および出席により評価するが、ゼミの中での積極的な姿勢も考慮に入れる。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
自分の発表に向けては、十分な努力と時間を費やして準備をすること。また、発表の前後には、指導教員とよく話し合うこと。 他の学生が発表する際には、その内容を理解し、議論することができるように、予習と復習を行うこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	生態環境論研究演習 Research Seminar on Ecology and Environment III				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 岩田 明久 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 竹田 晋也 東南アジア地域研究研究所 教授 西淵 光昭 東南アジア地域研究研究所 准教授 安藤 和雄 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 古澤 拓郎 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 小坂 康之 東南アジア地域研究研究所 准教授 坂本 龍太					
配当 学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
東南アジアの自然環境と、それをとりまく社会生態環境に関する総合的な問題把握と研究方法についての演習をおこなう。また、博士論文作成のために、多角的な視点からの評価や指導をおこなう。											
【到達目標】											
研究者となるに必要な知識と技術を習得する。特に、研究の構想と計画立案、文献検索と学術動向の把握、研究成果の公表、議論する能力などである。											
【授業計画と内容】											
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめ											
【履修要件】											
博士予備論文の審査に合格した者。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
発表内容および出席により評価するが、ゼミの中での積極的な姿勢も考慮に入れる。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
自分の発表に向けては、十分な努力と時間を費やして準備をすること。また、発表の前後には、指導教員とよく話し合うこと。 他の学生が発表する際には、その内容を理解し、議論することができるように、予習と復習を行うこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	生態環境論研究演習 Research Seminar on Ecology and Environment IV				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 岩田 明久 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 竹田 晋也 東南アジア地域研究研究所 教授 西淵 光昭 東南アジア地域研究研究所 准教授 安藤 和雄 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 古澤 拓郎 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 小坂 康之 東南アジア地域研究研究所 准教授 坂本 龍太					
配当 学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
東南アジアの自然環境と、それをとりまく社会生態環境に関する先端的な問題と研究方法についての演習をおこなう。また博士論文についての相互討論を深め、創造的で自立的な研究に向けての評価や指導をおこなう。											
【到達目標】											
研究者となるに必要な知識と技術を習得する。特に、研究の構想と計画立案、文献検索と学術動向の把握、研究成果の公表、議論する能力などである。											
【授業計画と内容】											
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめ											
【履修要件】											
博士予備論文の審査に合格した者。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
発表内容および出席により評価するが、ゼミの中での積極的な姿勢も考慮に入れる。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
自分の発表に向けては、十分な努力と時間を費やして準備をすること。また、発表の前後には、指導教員とよく話し合うこと。 他の学生が発表する際には、その内容を理解し、議論することができるように、予習と復習を行うこと。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	地域社会論 Culture and Society				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 杉島 敬志					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
地域社会における人間関係やその変容を理解するうえで必要となる、文化人類学の諸理論や基礎概念を概説する。予備知識をもたない学生にもわかりやすい教材を用い、その講読をおこないながら授業を進める。											
[到達目標]											
文化人類学の諸理論と基礎概念についての理解を深める。											
[授業計画と内容]											
授業スケジュール： 1. オリエンテーション（1回） 2. 人類学理論の歴史と基礎概念（4回） 3. フィールド調査、データ収集、データ処理（3回） 4. 現代的トピック（3回） 5. 調査計画のイメージ構想（3回）											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
成績評価は、レポートと平常点（出席や議論への参加）によっておこなう。両者の比率は50対50である。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学習（予習・復習）等]											
各回ごとの授業の終わりに、翌週までにおこなっておくべき予習課題を与える。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーは特に設けない。履修者は必要に応じて、授業担当者と面談・議論することができる。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	地域政治論 Politics and Society II				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 玉田 芳史					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	水1	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
東南アジア各国の政治を比較や鳥瞰によって理解することを狙っています。											
【到達目標】											
比較の観点から、特定の国の政治を的確に理解する能力を身につけます。											
【授業計画と内容】											
3段階の学習を通じて、東南アジア政治への理解を深めます。 (1) まず、東南アジア政治に関する日本語の入門書を2冊読みます。 清水一史・横山豪志・田村慶子編『東南アジア現代政治入門』ミネルヴァ書房、2011年 川村晃一・重富真一・鈴木早苗・川中豪・中村正志編『東南アジアの比較政治学』アジア経済研究所、2012年 (2) 次に、東南アジア政治に関するやや理論的な英語文献を輪読します。 Erik Martinez Kuhonta, Dan Slater, and Tong Vu (eds), Southeast Asia in Political Science: Theory, Region, and Qualitative Analysis (Stanford University Press, 2008). Dan Slater, Ordering Power: Contentious Politics and Authoritarian Leviathans in Southeast Asia (Cambridge University Press, 2010) (3) 最後に、東南アジア政治に関する最新の研究文献を読みます。さしあたりは次の4冊です。授業の進行状況や受講生の関心に応じて、ほかの文献も追加します。 日下涉『反市民の政治学: フィリピンの民主主義と道徳』法政大学出版局、2013年 本名純『民主化のパラドックス: インドネシアにみるアジア政治の深層』岩波書店、2013年 山根健至『フィリピンの国軍と政治』法律文化社、2014年 岡本正明『暴力と適応の政治学』京都大学学術出版会、2015年											
【履修要件】											
英語文献を読む能力、日本語で報告する能力が必要です。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
出席状況（報告や質疑応答を含む）											
【教科書】											
清水一史・横山豪志・田村慶子『東南アジア現代政治入門』（ミネルヴァ書房） 川村晃一・重富真一・鈴木早苗・川中豪・中村正志『東南アジアの比較政治学』（アジア経済研究所） Erik Martinez Kuhonta, Dan Slater, and Tong Vu『Southeast Asia in Political Science: Theory, Region, and Qualitative Analysis』（Stanford University Press） Dan Slater『Ordering Power: Contentious Politics and Authoritarian Leviathans in Southeast Asia』（Cambridge University Press） 日下涉『反市民の政治学: フィリピンの民主主義と道徳』（法政大学出版局） 本名純『民主化のパラドックス: インドネシアにみるアジア政治の深層』（岩波書店）											
----- 地域政治論 (2)へ続く -----											

地域政治論 (2)

[参考書等]

(参考書)
必要に応じて、適宜指示します。

[授業外学習(予習・復習)等]

事前に講読文献を指示するので、それを読んで予習する必要があります。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーは特に設定しませんが、授業時間外に話を希望するときは、tamada@asafas.kyoto-u.ac.jpにメールを送り、面会の約束を取り付けてください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	地域相関論 State and Society II (Gender and Society)				担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 教授 速水 洋子					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	火3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
<p>東南アジアでも少子高齢化が進行中であり、他方、国内外の移動はますます顕著な状況で、生活の根幹をなす家族の領域はどのように展開しているのか。普遍的と思われる家族は、より大きな社会の枠組みの中でどのように位置づけ理論化されどのように記述されてきたか。人類学の理論や東南アジア・東アジアを中心とするミクロな民族誌的視点と、制度やイデオロギーの展開をみる歴史的視点、そして現状までのマクロな視点を含み、過去から現在まで、その研究の展開を学びながら考える。また、現代的な問題としての移動労働や高齢化とケアの問題などのかかわりを検討した上で、家族の領域、家族と社会の関わりが地域理解においてどのように位置づけられるのか考察する。授業は講義と受講者の発表との両方によって進める。</p>											
[到達目標]											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族と社会に関する基本的事項を理解し、比較の視点から論じることができるようになる。 ・ 東南アジア社会について理解する。 											
[授業計画と内容]											
I 授業の説明等 II 家族をめぐる人類学の議論 III ジェンダーと家族 IV 東南アジアの家族とつながり V 民族誌で読む東南アジアの家族 VI 東南アジアの家族の制度と国家 VII 移動と家族・国際結婚など VIII 家族と社会											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
授業への参加・発表 期末レポート											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する 適宜配布											
[授業外学習(予習・復習)等]											
特になし											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワー：火曜2:30-4:00 ほか、相談に応じる											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	地域相関論 State and Society I (Comparative State Formation)				担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 教授 岡本 正明					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
ICT化時代の東南アジアの地方政治・行政を考察することを目的とする。東南アジアでも急速にICT化の時代が到来しており、その政治的影響も目立ち始めている。それでは、地方レベルではこうしたICT化はどのような政治的インパクトを与えているのであろうか。まずはこれまでの東南アジアにおける地方政治研究の先行研究をレビューした後、ICT化時代に変容を遂げつつある地方政治・行政の動態について分析することにしたい。											
[到達目標]											
東南アジアにおけるICT化の政治的インパクトを知ることができる。 東南アジアにおける地方社会の政治力学を知ることができる。											
[授業計画と内容]											
第1週目はオリエンテーションを行う。第2週、第3週はICT化と政治についての基本文献を読む。第3週から第10週目までは、東南アジアの地方政治に関する重要文献を読む。第11週と第12週は、ICT化がもたらす地方政治社会の変容に関する文献を読む。第13週からは、各自が、比較の視点を踏まえ、ICT化と政治についてテーマを一つ決め、それについて発表してもらう。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
出席状況、授業への取り組みの真摯さ、発表の仕方と内容											
[教科書]											
Kevin Kelly 『The Inevitable』 (Viking) ISBN:978-0-525-42808-4 Yochai Benkler 『The Wealth of Networks』 (Yale University Press)											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習 (予習・復習) 等]											
事前に教科書を読んでおくことが望ましい。											
(その他 (オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	地域変動論研究演習 Research Seminar on Society and Development I				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 杉島 敬志 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 玉田 芳史 東南アジア地域研究研究所 教授 速水 洋子 東南アジア地域研究研究所 教授 岡本 正明 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 伊藤 正子 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 片岡 樹 アジア・アフリカ地域研究研究科 助教 細田 尚美					
配当 学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
東南アジア地域の発展と変動の諸側面ならびに方向性をマクロ、ミクロの両視点から総合的に考察するための、基礎的な問題とアプローチの方法に関する演習をおこなう。											
【到達目標】											
博士予備論文を完成させる上で、学問的に適切な論を組み立てることができるようになる。 自分の研究内容を適切に発表できる技量を養う。 質疑応答を通じ、学術的な質問、応答の技量を養う。											
【授業計画と内容】											
受講生が、順番に、毎回2名程度、各自の研究の構想、進捗状況、成果などについて報告する。報告を受けて、参加者全員で議論を重ねることによって、東南アジア地域への理解を深める。 第1回目の開講時に報告順を決定する。 最終回には、まとめ(総括)を行う。											
【履修要件】											
博士予備論文審査にまだ合格していない者。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
個別研究報告の内容と、毎回のゼミへの出欠と討論への参加度などによる。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
研究発表を行うのが単位認定の前提である。指導教員や先輩等と相談の上、きちんと準備することが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
質問等があれば適宜担当教員に相談されたい。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	地域変動論研究演習 Research Seminar on Society and Development II				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科	教授	杉島	敬志				
	アジア・アフリカ地域研究研究科	教授	玉田	芳史									
配当 学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時間	水3	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語		
				東南アジア地域研究研究所	教授	速水	洋子	東南アジア地域研究研究所	教授	岡本	正明	アジア・アフリカ地域研究研究科	准教授
										アジア・アフリカ地域研究研究科	准教授	片岡	樹
										アジア・アフリカ地域研究研究科	助教	細田	尚美
【授業の概要・目的】													
東南アジア地域の発展と変動の諸側面ならびに方向性をマクロ、ミクロの両視点から総合的に考察するため、この分野に関する具体的な事例をとりあげ、研究課題の構築とそのアプローチの方法についての演習をおこなう。													
【到達目標】													
博士予備論文を完成させる上で、学問的に適切な論を組み立てることができるようになる。自分の研究内容を適切に発表できる技量を養う。質疑応答を通じ、学術的な質問、応答の技量を養う。													
【授業計画と内容】													
受講生が、順番に、毎回2名程度、各自の研究の構想、進捗状況、成果などについて報告する。報告を受けて、参加者全員で議論を重ねることによって、東南アジア地域への理解を深める。第1回目の開講時に報告順を決定する。最終回には、まとめ(総括)を行う。													
【履修要件】													
博士予備論文審査にまだ合格していない者。													
【成績評価の方法・観点及び達成度】													
個別研究報告の内容と、毎回のゼミへの出欠と討論への参加度などによる。													
【教科書】													
使用しない													
【参考書等】													
(参考書) 授業中に紹介する													
【授業外学習(予習・復習)等】													
研究発表を行うのが単位認定の前提である。指導教員や先輩等と相談の上、きちんと準備することが求められる。													
(その他(オフィスアワー等))													
質問等があれば適宜担当教員に相談されたい。													
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。													

授業科目名 <英訳>	地域変動論研究演習 Research Seminar on Society and Development III		担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 杉島 敬志 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 玉田 芳史 東南アジア地域研究研究所 教授 速水 洋子 東南アジア地域研究研究所 教授 岡本 正明 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 伊藤 正子 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 片岡 樹 アジア・アフリカ地域研究研究科 助教 細田 尚美							
配当 学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
東南アジア地域の発展と変動の諸側面ならびに方向性をマクロ、ミクロの両視点から総合的に考察するため、この分野に関する総合的な問題把握と研究方法についての演習をおこなう。また博士論文作成のために、多角的な視点からの評価や指導をおこなう。											
【到達目標】											
博士論文を完成させる上で、学問的に適切な論を組み立てることができるようになる。 自分の研究内容を適切に発表できる技量を養う。 質疑応答を通じ、学術的な質問、応答の技量を養う。											
【授業計画と内容】											
受講生が、順番に、毎回2名程度、各自の研究の構想、進捗状況、成果などについて報告する。報告を受けて、参加者全員で議論を重ねることによって、東南アジア地域への理解を深める。 第1回目の開講時に報告順を決定する。 最終回には、まとめ(総括)を行う。											
【履修要件】											
博士予備論文の審査に合格した者。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
個別研究報告の内容と、毎回のゼミへの出欠と討論への参加度などによる。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
研究発表を行うのが単位認定の前提である。指導教員や先輩等と相談の上、きちんと準備することが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
質問等があれば適宜担当教員に相談されたい。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	地域変動論研究演習 Research Seminar on Society and Development IV				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 杉島 敬志 アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 玉田 芳史 東南アジア地域研究研究所 教授 速水 洋子 東南アジア地域研究研究所 教授 岡本 正明 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 伊藤 正子 アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 片岡 樹 アジア・アフリカ地域研究研究科 助教 細田 尚美					
配当 学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
東南アジア地域の発展と変動の諸側面ならびに方向性をマクロ、ミクロの両視点から総合的に考察するため、この分野に関する先端的な問題と研究方法についての演習をおこなう。また博士論文についての相互討論を深め、創造的で自立的な研究に向けての評価や指導をおこなう。											
【到達目標】											
博士論文を完成させる上で、学問的に適切な論を組み立てることができるようになる。 自分の研究内容を適切に発表できる技量を養う。 質疑応答を通じ、学術的な質問、応答の技量を養う。											
【授業計画と内容】											
受講生が、順番に、毎回2名程度、各自の研究の構想、進捗状況、成果などについて報告する。報告を受けて、参加者全員で議論を重ねることによって、東南アジア地域への理解を深める。 第1回目の開講時に報告順を決定する。 最終回には、まとめ(総括)を行う。											
【履修要件】											
博士予備論文の審査に合格した者。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
個別研究報告の内容と、毎回のゼミへの出欠と討論への参加度などによる。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学習(予習・復習)等】											
研究発表を行うのが単位認定の前提である。指導教員や先輩等と相談の上、きちんと準備することが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
質問等があれば適宜担当教員に相談されたい。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	地域と社会経済 Socio-economics and Area Study II				担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 教授 水野 広祐					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時間	金5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>地域や、生態、政治、文化の変化には社会経済関係の変化が伴うことが普通であろう。この社会経済関係には、生産、消費、投資のみならず、流通、金融におよび、さらに技術などにおよび、これらの変化は、地域社会や、生態、政治、生態の変化に関係する。本授業では、これらの変化を制度変化と関連づけて考える。地域社会や生態、政治、文化の変化の背後にあったり同時に起こったりする社会経済的变化を特に制度や組織から分析し、同時に、これらの分析を可能にするフィールドや実証研究の方策について学ぶ。ここでいう制度には土地・労働・資本に関する様々な規則や歴史的展開が含まれる。本講義では、地域の変化や、生態、政治、生態の変化にも関係する様々な社会経済調査を授業で取り上げ、分析を進化させるための方策、とくに制度分析について学び、同時に、地域や、生態、政治、生態の変化に関する最新理論も議論する。</p>											
【到達目標】											
<p>経済社会調査の方法を習得する。また、特定問題を理解するにあたって経済社会事象をどのように分析するのか、土地・労働・資本などの制度をどのように分析するのかについての方法を習得する。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> 1．コモンズと制度（1） 2．コモンズと制度（2） 3．森林資源と制度研究・社会経済調査 4．生態研究と制度研究・社会経済調査 5．土地と制度研究・社会経済調査 6．都市調査と制度研究・社会経済調査 7．村落研究と制度研究・社会経済調査 8．労働と制度研究・工場調査と労働関係研究 9．企業グループ調査 											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
毎回の出席、討論への積極的な参加、授業における報告											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
<p>（参考書） Elinor Ostrom 『Governing the Commons』（Cambridge University Press） 重富真一 『タイ農村の開発と住民組織』（アジア経済研究所）</p>											
----- 地域と社会経済 (2)へ続く -----											

地域と社会経済 (2)

Suehiro Akira 『Capita Accumulation in Thailand』 (Silkworm Books)

川井秀一、水野広祐、藤田素子 『熱帯バイオマス社会の再生ーインドネシアの泥炭湿地から』 (京都大学学術出版会)

水野広祐 『インドネシアの地場産業』 (京都大学学術出版会)

高橋昭雄 『現代ミャンマーの農村経済』 (東京大学出版会)

根岸侑 『合股の研究』 (東亜研究所)

Douglas North 『Institution, Institutional Change, Economic Development』 (Cambridge University Press)

James Scott 『Weapons of the Weak: Everyday Forms of Peasant Resistance』 (Yale University Press)

高谷好一 『熱帯デルタの農業開発』 (創文社)

水野浩一 『タイ農村の社会組織』 (創文社)

Kosuke Mizuno et. al., ed 『Catastrophe and Regeneration in Indonesia 's Peatlands: Ecology, Economy and Society,』 (National university of Singapore Press)

[授業外学習(予習・復習)等]

特定の国の特定の課題について研究を進め、いつも自分の研究に引きつけて考えるようにする。

(その他(オフィスアワー等))

日本語ができない参加者がいるときは英語を主たる言語にして授業を行う。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	東南アジア史論 History of Southeast Asia				担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 教授 小泉 順子					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
東南アジア史のヒストリオグラフィーをめぐる諸問題を考察する。歴史叙述の下敷きとなるメタナラティブを自覚的に問題化する諸論考を検討しながら、新しい歴史像の模索を試みる。											
【到達目標】											
東南アジア研究の成り立ちを理解し、自らの研究も含めて歴史の文脈に位置づけて分析する視角と手法を習得する。											
【授業計画と内容】											
近年、東南アジア史研究において、これまでの歴史叙述の正当性に対する疑問が提起されている。歴史叙述を検討するにあたり提起されてきた方法論をめぐる理論的議論をたどりつつ、今日東南アジア史研究において古典と目される作品をとりあげて、研究史上の位置づけ・時代的文脈を検討する。受講者は、東南アジア史一般のみならず、個々の研究テーマに応じて、それぞれ研究史上において重要とみなされている作品を、研究が生み出された時代的文脈に位置づけて歴史叙述の観点から分析・紹介し、自らの研究を位置づける作業を行なう。											
(1) イントロダクション 授業の目的と内容の概括・ガイダンス											
以下(2)～(7)について受講者の関心を配慮しつつ各1～3週を充てる。また受講者の関心に応じて適宜テーマを調整する。											
(2) 「東南アジア」の歴史的成り立ち											
(3) 「地域研究」と冷戦											
(4) 東南アジア研究と華僑華人研究											
(5) 植民地主義と自律史											
(6) 前近代と近代											
(7) 社会科学的手法											
(8) まとめ 全体を振り返り歴史的視角と手法について議論する。											
【履修要件】											
歴史研究の方法論、ヒストリオグラフィー、研究史をめぐる諸問題に強い関心があることが望ましい。											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
出席とレポート											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書)											
授業中に紹介する											
----- 東南アジア史論(2)へ続く -----											

東南アジア史論(2)

[授業外学習（予習・復習）等]

毎回事前に配布する文献に目を通してのぞむこと。

（その他（オフィスアワー等））

主体的な授業参加を希望します。
オフィス・アワーは特に定めません。随時メール等でご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

授業科目名 <英訳>	水循環・風土論 Hydrology and Climatology				担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 准教授 甲山 治					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	火3	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
水文学は地球上の水の動態や分布，水質などを対象とした学問であり，水循環や水資源，気候および水災害，環境の持続性なども取り扱う．本授業では，アジアモンスーン地域を中心に，水循環過程や人間活動と水循環の相互作用に関する講義を行う．											
[到達目標]											
水循環や風土に関する重要な研究課題について，自主的に対応できる能力を養う．											
[授業計画と内容]											
第一週 オリエンテーション 第二週から十四週 講義 第十五週 まとめ											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
レポートの内容と、毎回の授業への出欠と討論への参加度などによる。											
[教科書]											
使用しない											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
授業前に予習すべきこととしては，受講生が興味を持つ地域における水問題や気象条件を調べておくこと．											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	東南アジア経済論 Economic Approach to Southeast Asia				担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 教授 三重野 文晴					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	水2	授業 形態		使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
東南アジア経済に関する研究を進めるにあたって、実証・理論の両面における経済学の方法論をどのように応用できるかを講義し、考える。そのための基本となる知識や方法論を紹介し、また分野の広がり理解できるような研究展望を提供する。統計パッケージによる計量経済学的な実証分析のトレーニングも行う。											
[到達目標]											
受講者が東南アジア研究に関するそれぞれのテーマの研究に取り組む際に、経済学的な観点と方法論を主体的に加味して考察が進められるような基本知識の習得を目的とする。計量経済学的な統計分析のノウハウの習得も目的とする。											
[授業計画と内容]											
4種類の講義が用意される。どれを行うかは受講者との相談による。											
1. 講師の専門分野である開発金融論に関わる2つのトピックのいずれかを受講者の意向を踏まえて選び講義する。(1. 金融機関の行動と金融包摂、2. 企業金融と企業統治)											
2. 講師の専門地域であるタイないしミャンマー経済の概説と研究課題について講義する。											
3. 計量経済学的な実証分析の基礎を講義し、あわせて統計パッケージソフトの利用法を指南する。											
4. 講師の専門以外の経済分野について論文ないしテキストの輪読と討論を行う。											
1, 3, 4についても東南アジアを中心とする新興国についての研究が主な題材となる。受講者になるべく多くの研究と方法論に触れることができるように努めたい。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
授業への出欠、指定論文討議における貢献、およびタームペーパー											
[教科書]											
全体としては特になし。Reading Assignmentをトピックごと課す。											
[参考書等]											
(参考書) 講義においてトピックごとに示す。											
[授業外学習(予習・復習)等]											
指定された論文を事前に読み込んでくることが求められる。論文はトピックごとに適宜指示する。											
(その他(オフィスアワー等))											
講義内で適宜指示します。											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	比較農村社会論 Comparative Studies of Rural Societies				担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 准教授 小林 知					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	火4	授業 形態		使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
現代は、様々な形のヒト・モノ・カネ・情報のフローが、世界各地の人々の生活を隈無く結びつけています。この授業では、家族や親族の関係を中心とした農村の小規模なコミュニティを出発点に、人間生活が示す多様なつながりと、その空間的な拡がりをもつ意味を考えることを目的とします。自然環境に働きかけて日々の糧を得るといった農村の伝統的な暮らしは、グローバル化のなかで大きな変化を遂げました。都市空間が拡大する一方、農村では過疎化といった問題が深刻になっています。農村を中心として、近年の生業・社会・宗教の変化に関する理解を深めることは、地域研究の基礎といえます。											
[到達目標]											
人間生活の多様な形とその変化に関する理解を進め、地域社会の問題をフィールドワークにもとづいて考えるという課題に対し、自主的に取り組むことができる能力を養う											
[授業計画と内容]											
第1～4週にかけて、東南アジア地域研究の特徴、家族・親族の多様性、生業からみた農村の多様性、都市と農村のつながりなどに関する講義をおこなった後は、受講者とともに、東南アジアを中心として研究論文を読みます。授業ではまた、フィールドワークによって集めた現地の情報を、いかにして民族誌的記述に練り上げるかという方法論の部分についても、適宜、意見を交換することを考えています。											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
平常点と年度末のレポート。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
課題として授業中に指定する書籍と論文については、事前に読んでから授業に臨むようにしてください。											
(その他(オフィスアワー等))											
授業外での面会については、事前にメール等で連絡をとるようにしてください。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	地域研究プロジェクト・デザイン Area Studies Project Designing				担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 教授 石川 登					
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
[授業の概要・目的]											
受講生それぞれの研究プロジェクト設計を補助することを目的とする。											
[到達目標]											
フィールドワークで行うべきことを事前にイメージトレーニングする。											
[授業計画と内容]											
<p>以下に記したようなトピックに関するホームワークの提出とその相互参照に基づく受講者参加型授業を進める。調査前のリサーチ・デザインならびに調査後データの可視化と論文構成のための力を養うことを主眼とし、博士予備論文執筆のための基礎的作業とする。奨学金情報の整理、設問分析、プロポーザル準備や文献探索方法など実効性のあるトレーニングも試みたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究タイムテーブルの作成 ・研究テーマの明確化と文章化 ・分析単位（空間的・歴史的枠組）の設定と文章化 ・調査デザイン/論文構成に関するコンセプト・マップの作成 ・方法論 ・調査方法 ・研究史レビュー ・リーディング・リスト設計と読解（地域） ・リーディング・リスト設計と読解（テーマ） ・文献探索方法 ・奨学金申請のためのプロポーザル・ライティングなど 											
[履修要件]											
地域、分野、トピックを問わない。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
<ul style="list-style-type: none"> ・一連のホームワークの提出と授業への積極的な参加 ・期末提出物としてのリーディング・リスト（地域とテーマ） 											
[教科書]											
授業中に指示する 適宜指示する。											
[参考書等]											
（参考書） 適宜指示する。											
[授業外学習（予習・復習）等]											
自分のホームワークを受講生人数分コピーし配布する。											
（その他（オフィスアワー等））											
アポイントメントによるオフィスアワー											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	総合地域論研究演習 Research Seminar on Environment, Society and Culture I				担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 教授	水野 広祐					
	東南アジア地域研究研究所 教授	小泉 順子	東南アジア地域研究研究所 教授	石川 登		東南アジア地域研究研究所 教授	三重野 文晴	東南アジア地域研究研究所 准教授	甲山 治	東南アジア地域研究研究所 准教授	小林 知	東南アジア地域研究研究所 准教授
配当 学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語	
【授業の概要・目的】												
東南アジアの生態文化複合系の動態把握、社会・文化・政治・経済にまたがる動態とその相関ならびに地域間比較を通じての地域固有の論理や析出展開論理について、基礎的な問題とアプローチの方法に関する演習をおこないます。												
【到達目標】												
東南アジア地域研究の諸課題について、自主的、継続的に取り組む研究能力を養います。												
【授業計画と内容】												
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめの総合討論												
【履修要件】												
博士予備論文審査にまだ合格していない者。												
【成績評価の方法・観点及び達成度】												
個別研究報告の内容と、毎回のゼミへの出欠と討論への参加度などによります。												
【教科書】												
使用しない ゼミの出席者は、積極的に質疑応答に参加するようにしてください。												
【参考書等】												
(参考書) 授業中に紹介する												
【授業外学習(予習・復習)等】												
授業後は、配布されたレジュメや資料、各自のノートをもとに内容を振り返り、質問できなかった疑問点などを自分自身で明らかにするよう心がけてください。												
(その他(オフィスアワー等))												
各教員の個別のオフィスアワーを参考にしてください。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

授業科目名 <英訳>	総合地域論研究演習 Research Seminar on Environment, Society and Culture II				担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 教授	水野 広祐					
	東南アジア地域研究研究所 教授	小泉 順子	東南アジア地域研究研究所 教授	石川 登		東南アジア地域研究研究所 教授	三重野 文晴	東南アジア地域研究研究所 准教授	甲山 治	東南アジア地域研究研究所 准教授	小林 知	東南アジア地域研究研究所 准教授
配当 学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語	
【授業の概要・目的】												
東南アジアの生態文化複合系の動態把握、社会・文化・政治・経済にまたがる動態とその相関、ならびに地域間比較を通じての地域固有の論理や析出展開論理に関する具体的な事例をとりあげ、研究課題の構築とそのアプローチの方法についての演習をおこないます。												
【到達目標】												
東南アジア地域研究の諸課題について、自主的、継続的に取り組む研究能力を養います。												
【授業計画と内容】												
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめと総合討論												
【履修要件】												
博士予備論文審査にまだ合格していない者。												
【成績評価の方法・観点及び達成度】												
個別研究報告の内容と、毎回のゼミへの出欠と討論への参加度などによります。												
【教科書】												
使用しない												
【参考書等】												
(参考書) 授業中に紹介する												
【授業外学習(予習・復習)等】												
授業後は、配布されたノートやレジュメ・資料などをもとに各自内容を振り返り、質問できなかった疑問点などを自分自身で明らかにしてください。												
(その他(オフィスアワー等))												
各教員ごとのオフィスアワーを参照してください。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

授業科目名 <英訳>	総合地域論研究演習 Research Seminar on Environment, Society and Culture III				担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 教授 水野 広祐	東南アジア地域研究研究所 教授 小泉 順子	東南アジア地域研究研究所 教授 石川 登	東南アジア地域研究研究所 教授 三重野 文晴	東南アジア地域研究研究所 准教授 甲山 治	東南アジア地域研究研究所 准教授 小林 知	東南アジア地域研究研究所 准教授 中西 嘉宏
	配当 学年	3-5回生	単位数	3		開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語
【授業の概要・目的】												
東南アジアの生態文化複合系の動態把握、社会・文化・政治・経済にまたがる動態とその相関、ならびに地域間比較を通じての地域固有の論理や析出展開論理に関する総合的な問題把握と研究方法についての演習をおこないます。また、博士論文作成のために、多角的な視点からの評価や指導をおこないます。												
【到達目標】												
東南アジア地域研究の諸課題について、自主的、継続的に取り組む研究能力を養います。												
【授業計画と内容】												
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめと総合討論												
【履修要件】												
博士予備論文の審査に合格した者。												
【成績評価の方法・観点及び達成度】												
個別研究報告の内容と、毎回のゼミへの出欠と討論への参加度などによります。												
【教科書】												
使用しない												
【参考書等】												
(参考書) 授業中に紹介する												
【授業外学習(予習・復習)等】												
授業後は、配布されたやレジュメ・資料やノートをもとに各自内容を振り返り、質問できなかった疑問点などを自分自身で明らかにしてください。												
(その他(オフィスアワー等))												
各教員のオフィスアワーを参照してください。 オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

授業科目名 <英訳>	総合地域論研究演習 Research Seminar on Environment, Society and Culture IV				担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 教授 水野 広祐	東南アジア地域研究研究所 教授 小泉 順子	東南アジア地域研究研究所 教授 石川 登	東南アジア地域研究研究所 教授 三重野 文晴	東南アジア地域研究研究所 准教授 甲山 治	東南アジア地域研究研究所 准教授 小林 知	東南アジア地域研究研究所 准教授 中西 嘉宏
	配当 学年	3-5回生	単位数	3		開講年度・ 開講期	2017・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	ゼミナール	使用 言語
【授業の概要・目的】												
東南アジアの生態文化複合系の動態把握、社会・文化・政治・経済にまたがる動態とその相関、ならびに地域間比較を通じての地域固有の論理や析出展開論理に関する先端的な問題と研究方法についての演習をおこないます。また、博士論文作成のために、多角的な視点からの評価や指導をおこないます。												
【到達目標】												
東南アジア地域研究の諸課題について、自主的、継続的に取り組む研究能力を養います。												
【授業計画と内容】												
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめと総合討論												
【履修要件】												
博士予備論文の審査に合格した者。												
【成績評価の方法・観点及び達成度】												
個別研究報告の内容と、毎回のゼミへの出欠と討論への参加度などによります。												
【教科書】												
使用しない												
【参考書等】												
(参考書) 授業中に紹介する												
【授業外学習(予習・復習)等】												
授業後は、配布されたレジュメ・資料やノートをもとに各自内容を振り返り、質問できなかった疑問点などを自分自身で明らかにしてください。												
(その他(オフィスアワー等))												
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

授業科目名 <英訳>	東南アジア論課題研究 Guided Research on Southeast Asian Area Studies I				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
博士予備論文の基礎となる個別課題に関する学生の研究内容について討議し、フィールドワークの視点と方法を練り上げるための演習。											
[到達目標]											
博士予備論文に関する基本的事項を理解する。											
[授業計画と内容]											
指導教員の3名が、学生の博士予備論文の進捗状況に合わせて、随時、個別演習をおこなう。											
[履修要件]											
博士予備論文審査にまだ合格していない者。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
自らの研究テーマに沿った資料の収集, 分析											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	東南アジア論課題研究 Guided Research on Southeast Asian Area Studies II				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員					
配当 学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
博士論文の基礎となる個別課題に関する学生の研究内容について討議し、学際化と研究内容の深化を図るための演習。											
[到達目標]											
博士論文に関する基本的事項を理解する。											
[授業計画と内容]											
指導教員の3名が、学生の博士論文準備の進捗状況に合わせて、随時、個別演習をおこなう。											
[履修要件]											
博士予備論文審査に合格した者。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
自らの研究テーマに沿った資料の収集, 分析											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	東南アジア論課題研究 Guided Research on Southeast Asian Area Studies III				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員					
配当 学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
博士論文の作成に向けて、そこで提起された個別課題に関する学生の研究内容について討議し、それをさらに総合化・深化させるための演習。											
[到達目標]											
博士論文に関する事項の理解を総合化・深化させる。											
[授業計画と内容]											
指導教員の3名が、学生の博士論文作成の進捗状況に合わせて、随時、個別演習をおこなう。											
[履修要件]											
博士予備論文審査に合格した者。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
自らの研究テーマに沿った資料の収集, 分析											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	アジア臨地演習 Asian Area Studies On-site Seminar I				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員					
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
生態・社会・文化に根ざした地域の固有性を理解するとともに、地域が直面する現代的諸問題を研究課題として発見するためのフィールドワークの手法を習得する。											
[到達目標]											
地域の固有性の理解を深め、研究課題を発見するためのフィールドワークの手法を習得する。											
[授業計画と内容]											
教員が、学生の臨地調査の進捗状況に合わせて、随時、個別に演習をおこなう。											
[履修要件]											
1年次に臨地教育を受けた者。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
臨地調査への積極的な取り組みが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	アジア臨地演習 Asian Area Studies On-site Seminar II				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員					
配当 学年	2-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
地域が直面する現代的諸問題を研究課題としてフィールドワークをおこなう手法を習得する。											
[到達目標]											
地域が直面する現代的諸問題を研究課題としてフィールドワークをおこなう能力を身につける											
[授業計画と内容]											
教員が、学生の臨地調査の進捗状況に合わせて、随時、個別に演習をおこなう。											
[履修要件]											
2年次以降で博士予備論文提出前に臨地教育を受けた者。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学習(予習・復習)等]											
臨地調査への積極的な取り組みが求められる。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	アジア臨地演習 Asian Area Studies On-site Seminar III				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員					
配当 学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
フィールドワークの過程で発見された具体的な研究課題について、国際機関やNGO、研究機関等において研究発表や討論をおこなうとともに、必要に応じて研究課題に即した実践活動をおこなう。											
[到達目標]											
フィールドワークの過程で発見された具体的な研究課題について、研究発表や討論、および研究課題に即した実践活動を行う能力を身につける。											
[授業計画と内容]											
教員が、学生の臨地調査の進捗状況に合わせて、随時、個別に演習をおこなう。											
[履修要件]											
博士予備論文提出後に臨地教育を受けた者（インターンシップを含む）。ただし、博士予備論文提出後、そのセメスター内に臨地教育を受けた者は臨地演習 の単位とする。											
[成績評価の方法・観点及び達成度]											
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学習（予習・復習）等]											
臨地調査への積極的な取り組みが求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

授業科目名 <英訳>	東南アジア研究概論 Southeast Asian Studies in Multidisciplinary Perspective				担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 東南アジア地域研究専攻教員					
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2017・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
東南アジア地域への理解を深めてもらい、東南アジア地域研究の特徴や面白さを学んでもらうことが目的です。京都大学における東南アジア地域研究の重要な特色である学際性文理融合性を活かして、東南アジアで起きている様々な事象について、自然系・人文系・社会系の地域研究者がそれぞれの得意分野から、分かりやすく解説します。											
【到達目標】											
地域研究者は、特定の国の特定のトピックにしか興味を持たないという弊害を避けるように努力すべきです。対象とする地域については何でも知ってやろうという好奇心が必要です。近隣諸国と比較して、研究対象国への理解を深めることも必要です。地域研究者として視野を広げることを目指します。											
【授業計画と内容】											
次の通り、15回に分けて、12名の教員が交代で講義を行います。地域は東南アジア、学問領域は工学、農学、環境学、公衆衛生学、経済学、政治学、人類学、社会学など多様です。											
1 なぜ東南アジアを学ぶのか--玉田芳史 (ASAFAS)											
2 水産資源とその利用 岩田明久 (ASAFAS)											
3 森林の保全と利用 竹田晋也 (ASAFAS)											
4 環境と植物 小坂康之 (ASAFAS)											
5 気候と水文 甲山 治 (CSEAS)											
6 自然と農業 安藤和雄 (CSEAS)											
7 人と健康 古澤拓郎 (ASAFAS)											
8 宗教 片岡 樹 (ASAFAS)											
9 社会革命 小林 知 (CSEAS)											
10 経済 水野広祐 (CSEAS)											
11 労働力の国際移動 (1) 細田尚美(ASAFAS)											
12 労働力の国際移動 (2) 細田尚美(ASAFAS)											
13 政治 (1) 岡本正明 (CSEAS)											
14 政治 (2) 玉田芳史 (ASAFAS)											
15 まとめ 玉田芳史 (ASAFAS)											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
出席と期末レポートに基づいて評価します。12名の講師は授業時にレポートの課題を示しますので、期末に所定の字数や本数のレポートを提出してもらいます。											
【教科書】											
使用しない											
----- 東南アジア研究概論 (2)へ続く -----											

東南アジア研究概論 (2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

東南アジアの11カ国について、地図、気候、植生、生業、経済構造、所得水準、宗教、言語、宗主国、政治体制といった基本的なデータを頭に入れておくこと。

『東南アジア史I(大陸部)』『東南アジア史II(島嶼部)』(山川出版社)の近代以降の箇所を読んでおくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。